





# 戦後70年を迎える今だからこそ、伝えたい—— 日本の未来を信じた人々、1945年8月15日の知られざる真実。

戦争終結のために、  
彼らが下した日本史上最大の決断とは——

今日も世界のどこかで、戦いが続いている。もはや日本の平和もいつまで続くのか、誰にもわからない。おりしも戦後70年の節目となる今年、日本が終戦に至るまでの波乱に満ちた道のりと、終戦前夜に起きた大事件の“知られざる真実”を解き明かす物語が完成した。太平洋戦争末期、戦況が絶望的となった1945年4月、鈴木貫太郎内閣が発足。そして7月、日本は連合国から、ポツダム宣言（日本に対し無条件降伏を求める共同宣言）の受諾を迫られる。降伏か、

本土決戦か——連日連夜、閣議が開かれるが、議論は紛糾。降伏勧告を黙殺すると発言した日本に、アメリカは原爆を投下、広島と長崎で何十万もの命が散る。

8月14日に御前会議が開かれ、天皇の聖断のもと、ついに閣僚たちは降伏を決定。だが、終戦に反対する若手将校たちはクーデターを計画、皇居やラジオ局への占拠へと動き始める。そのときから、終戦を知らせる天皇の玉音放送が国民に届く8月15日の正午まで——この“日本のいちばん長い日”に、一分一秒ごとに変わっていった日本の運命とは——？

最高峰の演技派キャスト総出演、  
衝撃と感動の歴史超大作

原作は半藤一利の傑作ノンフィクション「日本のいちばん長い日決定版」。さらに2014年に宮内庁から発表された「昭和天皇実録」を参考に、今だからこそ描ける歴史の裏側に迫る。陸軍の軍政を掌る地位に立ちながらも、天皇の身を案じて苦悩する陸軍大臣・阿南惟幾に役所広司、国民を想い平和を求める昭和天皇に本木雅弘。終戦に向け、思わぬ手を打つ鈴木貫太郎首相に山崎 勇。首相をサポートする迫水久常内閣書記官長に堤 真一。

本土決戦を主張し、クーデターを計画する畑中健二陸軍少佐に松坂桃李。密室の閣議で緊迫した心理戦を繰り広げ、日本の破るために命を懸けた人々の“戦いをやめるための闘い”が胸に迫る。監督・脚本は、社会派ドラマ「クライマーズ・ハイ」や、家族の姿を描いた「わが母の記」で、モントリオール世界映画祭審査員特別グランプリに輝いた原田眞人。史上最大の危機を迎えた日本で、一体何があったのか？すべての日本人に伝えたい、戦後70年の壮大な記念碑となる感動作が、ここに誕生した。

